

b-4 ^{かたかいがわ}片貝川上流域の^{どうすぎ}洞杉

写真 T-017 ^{かたかいどうすぎ}片貝洞杉

洞杉群で最大のタテヤマスギ。巨岩を包込むように成長した姿は凄みがある。中央は樽状になって人が立てる。何本かの融合か？。



▲北側よりの樹形

◀西側よりの樹形
巨大な岩を抱き
「岩抱洞杉」とも呼ば
れる。

どうすぎ
洞杉とは

富山県魚津市片貝川上流域に群生地がある奇形タテヤマスギで、崩壊地の岩などに着生したタテヤマスギが、実生伏条幹を複数成長させ、その幹がお互いに絡み合い、多くは幹に空洞があるので洞杉と地元では呼んでいる。片貝川上流域に多く、材にならない事から放置されて、巨大化している。



洞杉・根元に空洞ができるもの。この場合は、内部に古株があった古株更新と考えられ、古株は朽ちてなくなると、空洞になる。岩の上に着生した場合は、岩を巻込むように成長し、伏条幹が癒着して、その間に空洞ができる。



ちちどうすぎ
▲▼写真 T-010 **乳房洞杉**

背後に杉では珍しい気根が下がる。(上の写真では幹の左に、下の写真では幹の右に見える) 根元近くで数本に分岐している事から、実生伏条幹が立上がつて形成された樹形と思われる。





写真 T-019 ^{いわずどうすぎ} 岩屋洞杉

岩の上に着生した何本かのタテヤマスギが、実生伏条幹を20本近く立ち上げた樹形。根が絡みあって向こうが見える洞があり、典型的な洞杉である。近くの崖に大岩があり、下部の空洞が冬期の狩猟基地で、岩屋と呼ばれていた。岩屋洞杉は遠くから見ると、まるで杉林である。



岩屋洞杉・左下の幹に洞が見える▶



▲写真 T-020 ^{りゅうせきどうすぎ} 龍石洞杉 龍石である龍石がある近くに立つ洞杉である。



▲写真 T-021 ^{がんじょうどうすぎ} 岩上洞杉 龍石洞杉からしばらく登った左上の岩上に立つ。